

「砂防ダムで知ったこと」

富山県 滑川市立西部小学校 5年 ^{かねこ くうが}金子 空雅

ぼくは、夏休みに家族といっしょに、立山カルデラ砂防博物館に行ってきました。

博物館には、砂防ダムによって土石流を防ぐ治水事業や立山カルデラの事が、色々と説明してありました。

立山カルデラとは、立山火山のほかいとしん食によってでき、火山山頂部周辺が、かんぼつして生成した「かんぼつカルデラ」であると考えられているそうです。1858年4月9日に、飛越地震が起こり、そのえいきょうで、立山さんろくの、大とんび山、子とんび山が、完全にほかいし、大量の土砂が立山カルデラに流れこみました。立山カルデラにぼう大な量の土砂が流れこんでカルデラ内にあった立山温泉をうめつくし、さらに土砂は、常願寺川をせき止め大きな水たまりが、たくさんできたそうです。

そして、たまった土砂や、せき止められていた川の水が土石流となって流れ、富山平野に大きなひ害を出したそうです。

博物館では、土石流が流れる様子を、3Dの迫力あるえい像で見ることができました。このえい像を見てぼくは、土石流は、すごいなと思いました。その他にも、土石流による常願寺川の、はんらんによって、大きなひ害が起きる様子を、えい像でしかいさされていましたが、ぼくはこのえい像を見た時、最近大雨により、川がはんらんし、家や車が流されるえい像とそっくりだと思いました。

博物館の中には、大転石といわれ13メートル重さ400トンの岩のも型がてん示されていましたが、てん示物の説明を読むと、この大転石は、土石流で上流から流されてきたものらしいとの事です。こんな大きな石が上流から流れてくるとい事は、土石流の力はすごいんだなと思いました。

この常願寺川のはんらんを止めるために、常願寺川ぞいに、てい防をきずきましたが常願寺川のはんらんをおさえきれなかったそうです。

このはんらんする常願寺川の、原因である上流の不安定な土砂の流出をカルデラの出口で防ぐための砂防しせつを、砂防ダムといいます。

この立山カルデラの治水工事にあたって、外国の技じゅつ者は不可能だと言ったそうですが、赤木正おという人がオーストリア等ヨーロッパにりゅう学し、砂防について色々学んできて、砂防工事にとりかかったそうです。

学芸員さんの説明によると砂防の勉強は、専門用語が多く、とても大変だったと話してくれました。てん示されていた工事の図面などは、全て外国の言葉で書かれていたので、ぼくには、全く何の事が分かりませんでした。赤木さんの努力により白岩砂防ダムが完成しました。本ダムの高さは63メートル7つの副ダムを合わせると落差は108メートルとなり、ともに日本一の高さとなります。これらの砂防工事によって常願寺川における川の土石流によるひ害は無くなったそうです。

今でも、この砂防工事は続いていて、毎日作業員の人達がトロッコ電車に乗って、砂防ダムの工事に向かっていと聞いて、ぼくは、砂防ダム工事は、すごく大変な事なのだと思います。

砂防ダムのおかげで、テレビで見るような川のはんらんによるこう水が、起こらず、ぼくらが安心してらせるので、とてもありがたいことだと思います。

博物館の学芸員さんから聞いた話で、砂防技じゅつの「砂防」とは、スシなど世界に通用する日本の言葉だそうです。その話を聞いてぼくは、すごいなと思いました。

ぼくは、この立山カルデラ砂防博物館で色々な事を知ることができて、とても良かったと思いました。